

開発課題 1-2 (小目標) 環境保全	【現状と課題】 パナマでは、近年の急激な経済成長に伴い、都市部における自然環境保全や廃棄物管理への対応が急務であるが、社会経済活動による環境への負荷の適切な管理・軽減には至っていない。パナマ運河の船舶航行のための水量の安定確保は、国家最重要課題の一つであり、現政権は「国家水資源保護計画(2015年～2050年)」を策定し、統合的な運河流域の水資源管理に取り組む姿勢である。地方部においては、毎年の集中豪雨による洪水や地滑りに備えた防災対策も依然として重要である。さらに、研究施設や気象条件等が揃うパナマにおいて、過去の養殖や水産資源管理技術の基礎研究成果を活用して社会実装化に向けた取組を実施する意義は大きい。また、2017年にパナマ政府が打ち出した国家協力計画「パナマ・コオベラ2030」にも、政府が今後取り組むべき重点分野のひとつとして、環境保全を含む持続可能な経済成長が掲げられている。			【開発課題への対応方針】 自然環境保全分野においては、過去20年に及ぶパナマ運河流域水産資源の技術協力プロジェクト及び第三国研修の成果を踏まえ、中米地域協カイニシアティブにより展開される「生態系・湿地保全」の取組との整合性にも留意しつつ、中南米域内の流域管理実施能力強化と当該分野のナレッジシェアリングの拠点を旨とする取組を支援する。防災分野では、気候変動に関連する集中豪雨被害が増加傾向にある中、洪水・土砂崩れ脆弱地域のコミュニティ防災強化を支援する。また、我が国の知見及び過去の協力成果も活用した水産資源の持続的利用に資する取組も支援する。									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考	
	環境保全プログラム	都市部における自然環境保全、気候変動への取組も視野に入れた地方部における防災対策等への支援を柱とする。また、生物資源保護の観点から、マグロ等の資源管理に必要な知見の蓄積・統合を図る。	SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト	技プロ								SICA加盟全8カ国を対象	
			中米広域防災能力向上プロジェクト(フェーズ2)(広域)	技プロ							9.50	支援額は広域全体額	
			エコシステムベースの参加型流域管理	第三国研修									
			環境保全分野の青年海外協力隊/シニア海外ボランティア	JOCV/SV									
			環境保全分野の課題別研修・青年研修	課題別研修他									
環境保全分野の第三国研修			第三国研修										
重点分野 2 (中目標)	格差是正												
開発課題 2-1 (小目標) 格差是正	【現状と課題】 パナマでは、近年の急激な経済成長により一人当たりの所得は向上したが、国内格差や貧困の存在は依然として顕著である。現政権が2015年1月に発表した「国家開発5カ年計画」は「一つの国」をスローガンとし、「経済社会の持続的かつ包摂的な開発」により、格差是正や貧困対策に積極的に取り組む姿勢を明確にしておき、格差是正に資する人材育成や教育の質向上への取組も重要である。また、2017年にパナマ政府が打ち出した国家協力計画「パナマ・コオベラ2030」にも、政府が今後取り組むべき重点分野のひとつとして格差是正が掲げられている。			【開発課題への対応方針】 格差是正によりパナマの持続的な経済成長を後押しするため、地方・農村・漁村部における地域特性を活かした振興、教育の質向上、障害者、女性、子供等社会的弱者への支援を、研修員受入、青年海外協力隊/シニア海外ボランティア派遣等のスキームの有機的な連携によって支援する。とりわけ、ボランティア事業を通じた理数科教育、スポーツ、青少年活動等の地域レベルにおける取組、帰国研修員同窓会の格差是正・地域開発関係分科会を通じた支援、草の根無償を通じた基礎医療の充実や女性の社会進出促進に資する生活環境の創出を重視していく。また、中米地域協カイニシアティブにより展開される「農村地域開発」、「女性の経済的自立支援」の取組との整合性に留意する。									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考	
	格差是正プログラム	格差是正や貧困対策に資するよう、我が国の経験とノウハウを活用しつつ、以下の項目について重点的に支援する。 (1) 中小零細企業支援 (2) 地方資源を活用した持続的な地方/漁村振興 (3) 理数科教育の強化による人材育成 (4) 障害者・女性・子供等社会的弱者への支援 (5) スポーツ、青少年活動、日本語教育等の分野における人材育成	教育・保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.57		
			地方/漁村振興分野及び人材育成分野の青年海外協力隊/シニア海外ボランティア	JOCV/SV									
			格差是正分野の課題別研修	課題別研修他									
格差是正分野の第三国研修			第三国研修										
【凡例】「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(＝個別機材)、「個別研修」(＝課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(＝青年海外協力隊)、「SV」(＝シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」(＝第三国研修)、「現地国内研修」(＝科学技術)、「科学技術」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「O〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(＝水産無償資金協力)、「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「情報収集調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「中小企業支援」(＝中小企業海外展開支援事業「基礎調査」、「案件化調査」及び「普及・実証事業」、並びに中小企業連携促進基礎調査)、実績「――」(＝実施期間)、破線「――」(＝実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。													